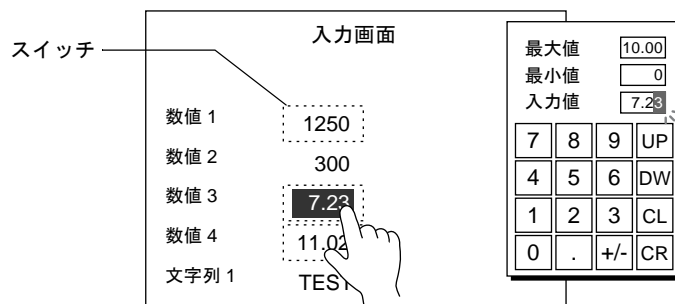


[機能：オーバーラップ表示 =ON (またはマルチオーバーラップ表示)]スイッチの場合

[機能：オーバーラップ表示 =ON (またはマルチオーバーラップ表示)]スイッチを入力対象に重ねて配置すると、スイッチを押すと同時に、オーバーラップが表示され、カーソルも表示します。(P 7-26 参照)

各スイッチを押すたびにカーソルは移動するので、オーバーラップ表示中は[機能：項目選択]スイッチと同等の動きが可能です。



スイッチを押した時にオーバーラップが表示して、カーソルも押した箇所に表示する
オーバーラップ表示中は、スイッチを押した箇所にカーソルが移動する

項目選択メモリによる項目選択

入力対象が配置した場所に、[項目選択メモリ]を設定することによって、カーソルの移動先として選択するかしないか、制御することが可能になります。

設定箇所

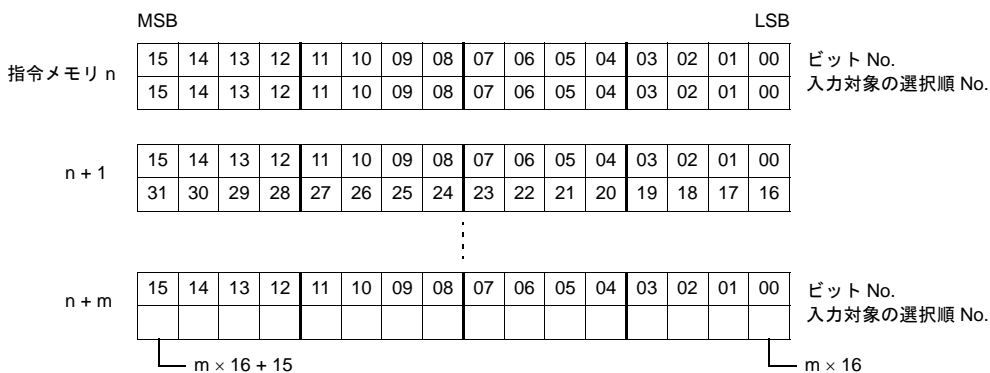
入力対象		設定箇所
種類	配置箇所	
数値表示 文字列表示	ベース画面	[画面設定] → [スクリーン設定] → [入力]メニュー → [□項目選択メモリ]
	ノーマルオーバーラップ	[ノーマルオーバーラップ] ダイアログ → [細かい設定]メニュー → [□項目選択メモリ]
	マルチオーバーラップ	[マルチオーバーラップ] ダイアログ → [細かい設定]メニュー → [□項目選択メモリ]
	コールオーバーラップ	[コールオーバーラップ] ダイアログ → [細かい設定]メニュー → [□項目選択メモリ]
	グローバルオーバーラップ	[グローバルオーバーラップ設定] ダイアログ → [細かい設定]メニュー → [□項目選択メモリ]
	データブロックエリア	[データブロックエリア] ダイアログ → [細かい設定]メニュー → [□項目選択メモリ] *1
表形式データ表示	—	[表形式データ表示] ダイアログ → [細かい設定]メニュー → [□項目選択メモリ]

[□項目選択メモリ]にチェックを入れて、[項目選択メモリ]の先頭アドレスを指定します。

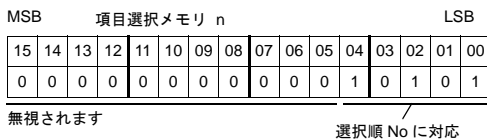
*1 [データブロックエリア]ダイアログの[□項目選択メモリ]のみ、先頭アドレスと[ワード数]も設定します。

項目選択メモリの内容（入力対象＝数値表示 / 文字列表示の場合）

[項目選択メモリ]は、次のように[入力対象]の[選択順]No. と関連付けされます。



例：以下のような場合



項目選択メモリの内容（入力対象＝表形式データ表示の場合）

表形式データ表示の列数によって割付が異なります。

- * 表形式データ表示それぞれの[選択順]No. は、関係ありません。
 行番号、列番号については、[表示機能：入力対象]のデータ表示があってもなくても同じ番号となります。作画文字列のみの行・列であっても必ず番号が付けられます。

- 1～16列の場合
 1～16列の場合は1行あたり1ワード使用します。
 総使用ワード数は、[行数]ワードです。



- 17～20列の場合
 17列以上の場合は1行あたり2ワード使用します。
 総使用ワード数は、[2×行数]ワードです。

